埋蔵文化財
探訪シリーズ
REKIMIN・るぽ
レキミン

〉17〈

宮谷古墳群

（その二）

宮谷一号墳の周りには、埴輪が並べられていたらしく、調査ではたくさんの埴輪片が出土しました。そのなかには円筒埴輪のほか人や家、盾を形どって作られた形象埴輪がたくさんありました。形象埴輪が出土したのは、大東では初めてのことです。

盾形埴輪には、直弧文という特殊な紋様があり、奈良県の石見遺跡で多く出土しているものとよく似ていることから、石見型盾形埴輪と呼ばれています。埴輪は、古墳の周囲を取り巻くように出土しており、それから推定すると、宮谷一号墳は直径約二十メートルの円墳であったと考えられます。

石室から出土した副葬品の須恵器は、六世紀後半のもので、石室が造られたのもほぼ同じころでしょう。

それに対して、周辺から出土した埴輪は六世紀前半のものでやや古いことから古墳を再度造り直したと考えられます。

六世紀は古墳時代後期にあたり、宮谷一号墳は、この時期に、北条一帯を支配していた人物の墓であったと思われます。

宮谷一号墳の横穴式石室は、総合文化センター歴史民俗資料館の東側に原型のまま移築して屋外展示しています。

石室内に置かれていた副葬品の須恵器

埋蔵文化財
探訪シリーズ
REKIMIN・るぽ
レキミン

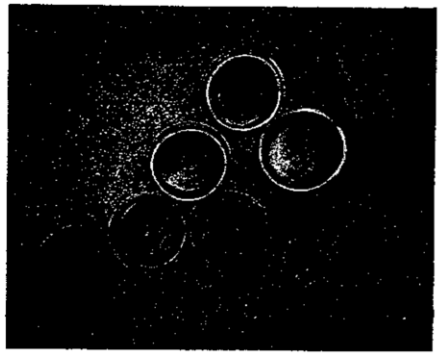
〉18〈

北条遺跡

（その一）

北条遺跡は、北条小学校の東側の丘陵地にあります。昭和六十一年と六十二年に宅地造成工事に先立つ発掘調査を実施しました。調査の結果、旧石器時代から中近世までの幅広い時代の遺物が出土し、弥生時代の竪穴住居跡や、古墳三基、奈良時代から平安時代の火葬墓が発見されました。

旧石器時代の遺物は、「石器である有舌尖頭器が一点出土しています。旧石器時代は、今から約二百万～一万年前の時代を指しますが、日本で発見されている最古の遺跡は、約三万年前のものになります。北条遺跡の有舌尖頭器も約三万～一万年前の後期旧石器時代に属しています。この時代の遺物が出土するのは珍しいことで、市内では、宮谷古墳群で採集されたものに次いで二例目で大変貴重なものです。弥生時代では、竪穴住居、土坑などが検出され後期に属する土器が出土しています。なかでも、手焙り形土器という珍しい形の土器が出土しています。古墳時代では、円墳を三基検出しています。いずれも墳丘の盛土は流失してしまっていますが、周溝が検出され、一号墳、二号墳はともに直径約十メートル、三号墳は直径約十五メートルと推定されます。周溝内には、須恵器の坏身、坏蓋、甕などが置かれていました。



北条一号墳周溝内から出土した須恵器